



便利屋

こらぼワーク

街の便利なよろず相談窓口

当たり前にできていたことが、年齢とともにできなくなった。
不便だけれど、相談できる人が周りにいない。

安心してください、たった1本の植木の手入れでも、どんな些細な不便でも、こらぼワークが解消しに駆けつけます。
こらぼワークは、この街の皆さんにとって友人のように頼りになる存在でありたいと願い、今日も駆け回っています。

お申込の流れ

お問い合わせ

まずはお気軽にお電話
でご相談ください

お見積り

作業内容やご予算に
応じて作業費をお見積り

訪問・実施

ご指定の日時に訪問し、
作業をいたします

庭の手入れ 植木の剪定 草刈り
カーポートの修理 外壁の塗装
手すり・スロープの取付 簡易修繕
水漏れ・排水の詰まり 換気扇の清掃
物置の片付け 粗大ごみの処分

価格や時間に関してはお電話で随時お見積り

お客様の声

毎年一回、庭の木の剪定をお願いしています。1時間程度の作業なのですが、いつも笑顔でくださいます。また、家の修繕など自分ではなかなかできず、子どもたちにも頼みにくいことを相談できるのでありがたく思っています。(60代 女性)



便利屋のご依頼・ご相談はこちらまで

☎028-645-5561

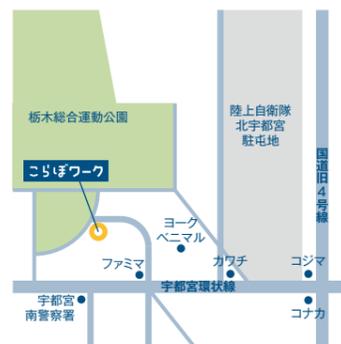
受付時間 月曜～金曜 9:00～17:30

こらぼワーク 宇都宮事業所

〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田7-1-2

FAX 028-680-6598(宇都宮事業所)

<http://www.kyoudou.net/>



CO-LABO WORK Press

こらぼワークプレス

SPECIAL こらぼワーク宇都宮事業所

街と社会の「きれい」を
つくり続ける仕事



02

2016 Winter

CO-LABOWORK

Quarterly Publication

企業組合とちぎ労働福祉事業団
〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田7-1-2
tel 028-645-5561 fax 028-659-4959
<http://www.kyoudou.net/>

TAKE FREE



いつもの「きれいと安心」を つくり続けること。

さっき出したゴミのゆくえ、知っていますか？

買い物に行くスーパー、不思議といつもきれいなのはなぜ？

そんな「まちをきれいにする」仕事を柱にしているのが、

こらぼワーク宇都宮事業所です。

右手に街への想い、左手に清掃用具やゴミを持って

「きれい、安心が当たり前」な毎日のために、走り続けてきました。

ごみの収集運搬を中心とした「環境美化事業」と

お店や社会福祉施設などの清掃や営繕、便利屋業を中心とした「ビルメンテナンス事業」。

多様な事業内容のどれも、これも、ひとつの根っこでつながっています。

「街をきれいで安心にすることで、仕事をつくり、地域社会を安心で豊かなものにしたい」

こらぼワーク創業から四半世紀。

このまちの「きれいと安心」のために、今日も休むことなく走り続けています。



伊藤さん
宇都宮事業所
環境美化事業部
(8年)

街のきれいをつくる
環境美化事業部

宇都宮事業所

街のために、家族のために、
走り続ける

両手に 7,8 個のごみ袋。さっきまで手の中にあつた袋たちが、まるで居場所が決まっていたかのように、回収トラックのなかに気持ちよく収まっていく。その間にも、頭の中は次にまわる最短ルートを検索中。

こらほワーク宇都宮事業所の伊藤さんは、宇都宮市から栃木市まで 1 日に 25 件程度のお客さんのところを確実に回らなければならない、なおかつ道中は徹底した安全運転。限られた時間で全て回収するのは簡単なことではない。

「誰にでもできる仕事ではないんです。だからこそ面白い。」

そう笑顔で話す伊藤さんが、宇都宮事業所に配属されたのは、つい去年のこと。その前には小山事業所でルート回収を6年経験してきた。

伊藤さんがこらほワークへ参加したのは、家庭での出来事がきっかけだった。

「私の子どもが障害を持って生まれてきたんです。家族のためにしっかり働かなければと思う一方、一緒に家族と過ごす時間を大切にしたい。それを両立できるしごとを探していた時、誘われて入りました。自分でしごとの組み立てができる職場環境は本当にありがたい。他のスタッフのサポートもありながら、子どもとの時間を大切にできています。」



環境のために今から、ここから、
できるところから

ごみのルート回収のお客さんは、長くつきあひのある企業や団体が多く、分別方法に理解がある。一方で、環境を守るために刻々と分別方法は変化していく。それをしっかりと伝える義務がある。ちゃんと分別をしてくれて、分けられるように変わっていく。言ったことがちゃんと伝わった、というのが本当に嬉しくてやりがいになる。

「環境問題ってどうしたらいいの?とあるけど、まあ出来る所からやるしかない、と思うんです。ここからでしょ、と。できることでひとつずつやっていったら、いつかは、ね。そのいつかは分からなくても誰かがやっていたら変わるはず。」

伊藤さんはそんなスタンス。でも、可燃ゴミに

ライターがまぎっていたりと現場はとまどいの連続。
自分のことも含めて、次の世代になにを残せるのか。「できるところから」、それが草の根的に少しずつ、環境への意識が変わってくれる事を祈って、今日も軽やかにゴミを集める。

一人ひとりが社会にとって
必要とされる仕事を担う

私たちの社会の中には、障害者手帳を持たないものの「働きにくさ」を抱えている人々も大勢いる。そのひとりの八木さんは、今や宇都宮事業所でいちばんの古株。なくてはならない癒しキャラだ。

八木さんは生ゴミを回収して、リサイクルセンターへ持っていく仕事を担っている。そのゴミ

は堆肥となって再び、野菜づくりに活かされていく。ゴミとなつてすぐ、腐敗する前に回収され、粉碎されて完全に醗酵した生ゴミは臭いを発しない。

不要なゴミが八木さんの手で環境に良いものへと生まれ変わる。「すぐに処理すれば臭くならないんです。とてもやりがいのある仕事なんです」と八木さん。

必ずその人にしかできない仕事がある。障がい者という一括りにできない「働きにくさ」を抱えている人がたくさんいる社会。地域に必要とされ、つながりの深い仕事をつくることこそが、こらほワークの原点でもあった。



八木さん
宇都宮事業所
環境美化事業部
(27年)

生ゴミを
肥料に再生し、
資源の循環
サイクルに

暮らしのきれいをつくる ビルメン事業部

宇都宮事業所

きれいの先にある、 環境への挑戦

黄金色に輝くいちょうの絨毯。この季節ならではの美しい光景。でも誰かが掃除をしなれば、時とともに汚れていくばかり。「この時期が一番大変なんです。きれいになっていて当たり前なんです。きれいにすることには終わりが無い。ときどき「ありがとう」と声をかけてもらえることがあって、励みになりますね。」
照れ笑いでお話するのは、宇都宮事業所の所長、石川さん。

休耕地となっていた実家の土地を「福祉と協同の里構想」*1の舞台としてこらほワークへ貸したことで、佐藤理事長と知り合った。その想いに共鳴し、こらほワークに参加したのが20年前のこと。

入った当初は、清掃やビルメンテナンスに関して全くの素人だった。「頼んでくれた人の毎日が快適になってほしい」そう思う一心で、ビルクリーニング技能士、清掃作業監督者といった資格を猛勉強して取得。宇都宮事業所では、スーパー、ビルやアパート、病院、福祉施設などの清掃や営繕といった「地域をきれいにする」ための幅広い仕事をつくり出してきた。

「20年間で、夢中で仕事を体験していく中で技術も身に付いて、日に日に面白くなっていきました。ただ「きれい、快適」だけではなく、その先にはさらに挑戦したいことがあるんです」

石川さんを始めとしてこらほワークがチャレンジしているのが、環境と福祉の課題解決。宇都宮事業所では、環境負荷がかからないメンテナンス方法を採用している。

例えば床のワックスがけ。一般的にはワックスをかけて、定期的に剥離し、再度かけなおすという手順だ。けれど、ワックスを剥離する時に大量の汚水がでて水質汚染に繋がってしまう。そこで、剥離しなくても磨きをかけるだけでピカピカになる、新しいワックス剤を使用している。日進月歩の技術。環境博に向いたり、取引先の資材屋さんから情報収集をしたり、「環境と地域によいこと」にいつもアンテナをはりめぐらせている。

※1 宇都宮市長岡町の里山にあり、現在はソーシャルファーム長岡として就労支援を行っている。農業を中心とした就労支援B型、宇都宮事業所と提携して清掃業を中心とした就労支援A型を実施。



石川さん

宇都宮事業所所長
ビルメン事業部
(20年)



不動産会社からの委託で行っているアパート・マンションの定期清掃業務。障がい者の就労移行支援事業を手掛けるソーシャルファーム長岡の利用者に仕事を提供している。住人の方が快適に生活できるよう、共用部分を美しく清掃することで社会とのつながりを実感し、責任と誇りになっていく。



ビルメンテナンス業務では建物外部の高圧洗浄から窓・サッシの清掃、共用部分の清掃を行う。普段は手の届かないところまで徹底したクリーンアップで不動産価値を保つ。



コープ様からの委託で行っている店内外の清掃業務。オープン前の限られた時間内に店舗全体をクリーンアップ。毎日の開店時に気持ちよくお客様を迎え入れるために、陰で活躍している。



暮らしの安心をつくる 便利屋事業

宇都宮事業所



街に根ざした、よろず相談窓口

「昨日までやれていたことが出来ない」「頼れる人がいない」「行政の支援サービスはあっても、よく分からないし限度がある」そんな不安な想いを抱えている人々が、私たちの社会にはたくさんいる。

こらぼワーク福祉住環境事業部では、福祉用具のレンタル、介護用品の販売、高齢者向けの住宅の改修といった事業を展開していくなかで、不便を抱えた人々を目の当たりにしてきた。

「一人ひとりの暮らしに寄り添うことで、毎日の不安を安心に変えたい」そう思い立ち上げたのが、福祉の枠組みを広げた新しいサービス「便利屋業」。独居老人宅の片付け、お庭の剪定、草刈りなどの相談を受けている。便利屋事業の宇都宮エリアを東ねる石川さんは次のように話す。

「大工さん、建築、設備業者さん。私たち

の理念に共感してくれるパートナー企業の皆さんがいるので、どんな困りごとでも受けています。どこに相談すればいいかわからない、些細な事だと相談しにくい。実は、そんな声がとても多いんです。だから気軽に「とりあえず相談してみよう」と思ってもらえるような、街のよろず相談窓口でありたいですね。」

作業の中心となっている中澤さんは、なんと79歳。無線や物作りが好きという持ち前の器用さが便利屋の仕事で活かされている。さらに、若い人のパワーが必要とされる家の片付けや家具の移動を中心とした作業は、栃木県若年者支援機構「しごとや」*2 に手伝ってもらっている。

シルバーさんも困難を抱えた若者たちも、必要としてくれる誰かのために、地域のために、いきいきと自分らしく仕事をする。そんな姿勢が地域の人に伝わって、信頼関係が生まれ、みんながしあわせな社会になる。それがこらぼワークが目指す仕事おこしの根幹にある。

「空き家」事業、はじめました。

こらぼワークがおこす仕事の特徴は、地域の「困った」を解決するというもの。それを示す宇都宮事業所の新たな取り組みが、社会問題になっている「空き家」事業。

管理されていない空き家は、放火など犯罪の標的にされてしまうことも多い。地域社会の安全のためにも、定期的な見回りや清掃、換気などの空き家管理サービスを展開する予定だ。

社会の仕組みでは拾いきれない課題解決のために、こらぼワークは新たな一歩を踏み出していく。

*2「しごとや」は、ニートや引きこもり、精神疾患、発達障害など様々な困難を抱える若者たちのために働く機会や環境をつくり、相談から自立まで総合的に支援する団体。「人の役に立ち、社会とのつながりが実感できる便利屋業は、自己肯定感を回復させるのに最適。若者の意欲や活力を引き出す雇用の受け皿として期待が高まっています」と便利屋事業部長の西根さん。ご興味のある方はHPをご覧ください
<http://tochigi-yso.org/>

リジチャーの Q&A

何でも聞きたまえ!



坊や

リジチャー! 最近、COP21 が開催されて、ますます環境問題が話題だね。ところでよく耳にする「エコアクション 21」ってなあに?



リジチャー

やあ坊や、相変わらず意識高いねえ。エコアクション 21 というのは事業者に向けて、環境への取り組みを効果的、効率的に行うことを目的に作られた、環境省が策定したガイドラインのことだよ。



坊や

ふーん。で、エコアクション 21 に参加すると何かいいことあるの?



リジチャー

事業者にも、地球にも、メリットはたくさんあるんだよ! 例えば、こらぼワークでは 2008 年からこんな取り組みをスタートさせたんだ。



環境省

エコアクション 21

認証・登録番号: 0002780

エコアクション 21 認証・登録制度は環境省が定めた環境経営システムや環境報告に関するガイドラインにもとづく制度です。こらぼワーク HP で環境活動レポートを公開しています。
http://kyoudou.net/eco_21.html

こらぼワークの環境マネジメントに対する取り組み

廃棄物削減、リサイクル化

段ボール、生ゴミなど資源ゴミを再生できるカタチで処理する取組み



環境によい商材の取り扱い

有害な化学物質を含まない清掃資材の使用、環境に優しいメンテナンス方法の採用・提案



電気、水使用量の削減 一酸化炭素排出量の削減

節約意識の周知徹底・使用量管理によって前年比1%削減に成功



太陽光発電システム 採光照明システム設置

本部敷地内に太陽光を室内に取り込む照明システム「ひまわり」設置



リジチャー

毎年立てた目標を見直して、次年度の計画をたて、継続することで年々いい傾向になっていくんだよ。スタッフの意識が変わっていくのはもちろん、具体的な数値として結果を外部にも公表できるから、他の企業や社会への信頼、影響にも繋がるんだね。

一人ひとりがほんの少し意識を変えてできるところからやってみる。エコアクション 21 は、そんな小さなアクションを起こすきっかけづくりになって、地球の未来を変える大きな力が生まれているんだ。

さあ、君も一緒に明日の地球を守ろう!



坊や

リジチャー、おながが! ウェイトも削減しない!



こらぼワーク × つながり



安藤正知さん

特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房
理事・事務局長
宇都宮まちづくりセンターまちびあ センター長

こらぼワークはたくさんの方々と共に地域社会を支える活動をしています。そんな、つながりが深い方々から見た「こらぼワーク」とは？

「まちびあ」ってどんなところですか？

まちびあは、宇都宮市のNPO、ボランティアグループ、企業、地縁組織、行政といった方々が枠を超えて集う活動拠点施設で、まちづくり活動への様々な支援を行っています。2012年1月4日に開設しました。

こらぼワークとの関わりは？

まちびあを開設する時に、建物の管理について知識がなかったので、実績があるこらぼワークをお願いすることにしました。今では、一般廃棄物、清掃業務と、その他にも給与計算、労務関係の業務をお願いしています。日常清掃では週に2回、1日3時間程度、上から下までひとりできれいにしてくれます。床のワックス清掃も年に1度お願いしています。古い建物ですが、床はびっかびかですよ。

「こらぼワーク」の印象を教えてください

こらぼワークさんは障害者雇用を熱心にやっている、というイメージです。その取組みをやっている団体の中でも、本当に頼りになる存在。あとは、何よりスタッフの方がみんな一生懸命。施設の設備のトラブルで困った時に電話をすると「あれ？もう来てくれたの？」とみんなでびっくりするくらい早く駆けつけてくれるんです（笑）。どんな細かいことでも何でも真面目にやってくれるので、安心してお任せしています。

information

宇都宮まちづくりセンターまちびあ

まちづくりに取り組む方々の活動拠点施設。「びあ」にはユートピアと仲間というふたつの意味があり「まちづくりに関わる仲間にとってユートピアになりますように」という素晴らしい想いが込められている。
宇都宮市元今泉5丁目9番7号
TEL: 028-661-2778
<http://www.u-machipia.org/>

活動報告

カルフルとちぎ2015に参加しました!

2015年11月6日(金)、7日(土)に栃木県障害者文化祭「カルフルとちぎ2015」が開催されました。絵画や写真、工芸品などの展示や、合奏、合唱、演劇などの発表、カラオケ大会など、楽しいイベントがいっぱい。

こらぼワークでは、ソーシャルファーム長岡が採れた新鮮野菜や長岡産はちみつ、はちみつ入り手作りジャムなどの販売、ソーシャルファーム小山が手づくり牛丼の販売をさせていただきました。自分たちで作った物がお客様の手に渡って大満足! たくさんの方に足を運んでいただき、ありがとうございました。



企業組合とちぎ労働福祉事業団

<http://www.kyoudou.net>

本部	〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2 tel 028-645-5561 fax 028-659-4959
宇都宮事業所	〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2 tel 028-645-5561 fax 028-680-6598
小山事業所	〒323-0808 栃木県小山市出井 1523-19 協栄流通株式会社小山物流センター内 tel 0285-25-1805 fax 0285-25-1816
福祉住環境事業部	〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田 7-1-2 tel 028-645-5561 fax 028-684-2403
ソーシャルファーム長岡	〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町 293 tel 028-680-6612 fax 028-680-6613
ソーシャルファーム小山	〒323-0807 栃木県小山市城東 2-8-19 tel 0285-39-6270 fax 0285-39-6271

Publishing : CO-LABOWORK
Art Direction & Design : FRONT DESIGN
Edit : Hitomi Yoshida (FRONT DESIGN)
illustration : Syuichi Saito (FRONT DESIGN)

We are deeply grateful to all the people who helped to create this paper.

Copyright 2015 CO-LABOWORK. All Rights Reserved.